



平成20年3月期 第1四半期財務・業績の概況

平成19年7月27日

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社 上場取引所 東証第一部
 コード番号 8113 URL <http://www.unicharm.co.jp/>
 代表者 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久
 問合せ先責任者 執行役員 経理部長 岩田 淳 TEL 03(3451)5111

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第1四半期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年6月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第1四半期	77,743	11.9	6,122	16.9	6,325	22.5	2,810	3.3
19年3月期第1四半期	69,490	11.7	5,235	△3.1	5,162	△8.5	2,721	1.1
19年3月期	301,880	—	29,929	—	30,071	—	15,058	—

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第1四半期	43 62	43 50
19年3月期第1四半期	41 63	41 48
19年3月期	232 31	232 17

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第1四半期	272,448	179,713	59.8	2,530 44
19年3月期第1四半期	249,332	166,756	61.0	2,328 07
19年3月期	268,763	177,049	60.0	2,501 60

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第1四半期	10,672	△2,965	△1,573	71,767
19年3月期第1四半期	3,525	△2,470	△2,329	66,372
19年3月期	28,357	△20,328	△10,795	65,449

2. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

(%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
中間期	155,000	8.1	13,500	0.6	13,500	1.4	6,000	△8.4	93 13
通期	328,000	8.7	33,000	10.3	33,000	9.7	15,500	2.9	240 59

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想には、本資料の発表現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当四半期(平成19年4月1日から平成19年6月30日まで)の国内事業は、高付加価値製品および新需要創造型製品を積極的に投入することによって、市場の活性化と価格の回復を図り、パーソナルケア事業の収益向上に取り組んでまいりました。ペットケア事業では、差別化されたカテゴリーを中心に強化・販売促進を図りました。

海外事業では、昨年からアジア及び中東・北アフリカ地域において順調に売上を拡大しました。タイ、インドネシア、マレーシアなどのアセアン諸国に加え、東アジアの中国・台湾・韓国においても売上を拡大した結果、海外売上高は前年同期より5,777百万円の大幅な増収を達成し、連結売上高に占める海外売上高の割合は37.2%(前年同期33.3%)まで増加しました。

この結果、当四半期の売上高は77,743百万円(前年同期比11.9%増)、営業利益は6,122百万円(前年同期比16.9%増)、経常利益は6,325百万円(前年同期比22.5%増)、四半期純利益は2,810百万円(前年同期比3.3%増)となりました。

事業の種類別セグメントの概況は次のとおりであります。

①パーソナルケア

【ベビーケア事業】

当社はベビー用紙オムツのリーディングカンパニーとして、昨年来、市場の再活性化と収益の向上に取り組んでまいりました。昨年10月に発売した高付加価値パンツ型紙オムツ『ムーニーマン さららマジック』の育成に注力すると共に、新たにさららマジック機能を搭載した『ムーニーマン汗スッカリ』を、夏場に高まる消費者の肌ケアニーズに合わせて発売しました。また、『マミーポコ』『マミーポコパンツ』では、期間限定の新デザインの製品を投入することによって、活性化を図りました。

一方、海外では、成長市場における積極的な販売・マーケティング活動を展開した結果、中国・タイ・インドネシアでは順調に売上を拡大し、台湾においてはシェアを大きく回復いたしました。また、中東・北アフリカ地域では、サウジアラビアを中心に売上を拡大しました。

【フェミニンケア事業】

国内では、生理対象人口の微減が続く中、『ソフィ』『センターイン』の二つのブランドを軸に、製品機能を高めた高付加価値製品を投入し、市場の回復を図りました。

生理用ナプキンでは、3月に改良新発売した、スリムタイプカテゴリー『ソフィボディフィットふわピタスリム』、夜用タイプの『ソフィ 超熟睡ガード』の販売に注力し、高付加価値カテゴリーの強化に取り組みました。また、全面的なリニューアルを施した『センターイン』ブランドでは、「コンパクト」シリーズ、「ふわふわタッチ」、「サラサラタッチ」を中心に、感覚を重視する女性に対して新たな価値を提案することによって、売上の拡大を図りました。6月にはTV広告を展開し、新たなブランドとして生まれ変わった『センターイン』の認知の獲得に努めました。

海外では、アジアに展開する各国において、夜用タイプナプキン・スリムタイプナプキンなど高付加価値製品を中心に販売を強化しました。また、アセアン地域におけるシェア拡大のために、4月よりベトナム国内に新設した生産工場では、生理用ナプキンの生産を開始し、ベトナムの生理用品市場に本格的に参入いたしました。また、中東・北アフリカ地域においては、サウジアラビアでの生産を開始し、『Sofy』ブランドの浸透を図りました。

【ヘルスケア事業】

国内では、在宅介護においても施設介護と同様の排泄ケアを実現する、約4回分の尿を吸収する『ライフリー 長時間あんしん尿とりパッド』を新発売しました。また、大人用排泄ケア用品ブランド『ライフリー』より、健康な高齢者向けの尿モレ対処品『ライフリー 吸水下着 スリムウェア』を4月10日に新発売し、団塊世代の高齢化が進み、ますます拡大すると予測される軽失禁市場において、新たな付加価値を提供いたしました。

業務用分野においては、独自の排泄ケアモデルの提案を継続することによって、新規顧客の獲得に注力してまいりました。

海外においては、台湾とタイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速し、独自の排泄ケア提案によって着実に売上を拡大しました。また、ヨーロッパを中心としたパンツタイプ紙オムツも順調に売上を伸ばしました。

【クリーン&フレッシュ事業】

当社がこれまで培ってまいりました不織布・吸収体技術を応用した製品を通じて、お客様へ清潔・安心・新鮮を提供するクリーン&フレッシュ事業では、新たなお掃除習慣を提案するシートクリーナー『ウェーブ』の強化とシートクリーナー市場の拡大に取り組みました。また、『シルコットウェットティッシュ』ブランドでは、パッケージを刷新すると同時に、「安心除菌」シリーズにはより安心な緑茶成分の除菌成分を配合し、製品の機能強化を図りました。

海外では、当社が保有するシートクリーナー『ウェーブ』のシート技術を、ザ・プロクター・アンド・ギャンブル社にライセンス供与しています。この技術を用いた「スイッフアードスターズ(Swiffer Dusters)」は、同社によって北米ならびにヨーロッパ地域において販売され、当社のロイヤリティ収入に大きく寄与しました。

②ペットケア

「健康と清潔でペットの暮らし快適に」の理念の下、ペットが元気で長生きし、清潔な環境で暮らしてゆくためのペットフード部門、ペットトイレタリー部門の2事業部門に特化して、事業展開を図ってまいりました。

ペットフード部門では、増え続ける高齢犬・猫への対応として、11歳以上用の犬・猫を対象に『愛犬元気 銀のさら11歳以上用』、『愛犬元気 ふっくらドライ 11歳以上用』、『銀のスプーン 11歳以上用』、『銀のスプーン 缶 11歳以上用』、また犬用副食製品において、アミノ酸合成によるうまみ補強技術にておいしさを最大限引き出した『銀のさら きょうのごほうび』の発売など、差別化されたカテゴリーを中心に強化・販売促進を図りました。

ペットトイレタリー部門では、『1週間消臭・抗菌デオトイレ』の取替え製品として、「消臭効果」が高く「飛び散り」を改善した『1週間消臭・抗菌デオトイレ 飛び散らない消臭サンド』、またペットのニオイに対する消臭ニーズに高いレベルで対応した消臭剤『ペットのニオイ一発消臭』の発売など、増え続けるペットの室内飼育に対応した製品を中心に強化・販売促進を図りました。

③その他

不織布・吸収体の技術を活かした業務用製品分野においては、スーパーマーケット等を顧客とする食品包材事業を中心に、業務用食品包材である『フレッシュマスター』のスーパーマーケットへの浸透強化と、飲食店ルートへの販売を強化しました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は前連結会計年度末に比べ3,685百万円増加して、272,448百万円となりました。また、純資産は、2,664百万円増加して179,713百万円となりました。この結果、自己資本比率は、59.8%となりました。また、流動比率は190%となり、自己資本比率と同様に良好な状態を維持しており、株主の皆様への配当及び新たな事業展開に向けた潤沢な資金を確保しております。

(連結キャッシュ・フロー)

当四半期における現金及び現金同等物は、71,767百万円（前年同期比5,394百万円の増加）となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、10,672百万円の増加となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益6,351百万円、減価償却費3,370百万円等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,965百万円の減少となりました。これは設備投資として有形固定資産の取得による支出4,694百万円がその主なものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,573百万円の減少となりました。これは主に配当金の支払1,416百万円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

中間期、通期ともに、当初予想（平成19年4月27日公表）と変更ありません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

該当事項はありません。

- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

区分	前年同四半期末 (平成18年6月30日)		当四半期末 (平成19年6月30日)		(参考) 前期末 (平成19年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)						
I 流動資産	133,638	53.6	144,591	53.1	142,588	53.1
II 固定資産	115,693	46.4	127,856	46.9	126,175	46.9
1 有形固定資産	78,958	31.7	89,053	32.7	86,725	32.2
2 無形固定資産	4,307	1.7	3,907	1.4	4,027	1.5
3 投資その他の資産	32,428	13.0	34,895	12.8	35,422	13.2
資産合計	249,332	100.0	272,448	100.0	268,763	100.0
(負債の部)						
I 流動負債	70,236	28.2	75,769	27.8	75,370	28.0
II 固定負債	12,339	4.9	16,965	6.2	16,343	6.1
負債合計	82,576	33.1	92,734	34.0	91,714	34.1
(純資産の部)						
I 株主資本	147,111	59.0	153,399	56.3	152,010	56.6
II 評価・換算差額等	5,074	2.0	9,623	3.6	9,155	3.4
III 少数株主持分	14,570	5.9	16,690	6.1	15,883	5.9
純資産合計	166,756	66.9	179,713	66.0	177,049	65.9
負債純資産合計	249,332	100.0	272,448	100.0	268,763	100.0

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

区分	前年同四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年6月30日)		当四半期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)		(参考) 前期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高	69,490	100.0	77,743	100.0	301,880	100.0
II 売上原価	40,288	58.0	45,641	58.7	173,238	57.4
売上総利益	29,202	42.0	32,101	41.3	128,641	42.6
III 販売費及び一般管理費	23,966	34.5	25,979	33.4	98,711	32.7
営業利益	5,235	7.5	6,122	7.9	29,929	9.9
IV 営業外収益	401	0.6	752	0.9	1,897	0.7
V 営業外費用	474	0.7	549	0.7	1,755	0.6
経常利益	5,162	7.4	6,325	8.1	30,071	10.0
VI 特別利益	5	0.0	208	0.3	225	0.1
VII 特別損失	135	0.2	183	0.2	1,218	0.5
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	5,032	7.2	6,351	8.2	29,078	9.6
法人税等	1,924	2.8	2,866	3.7	11,952	4.0
少数株主利益	386	0.5	674	0.9	2,067	0.6
四半期(当期) 純利益	2,721	3.9	2,810	3.6	15,058	5.0

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年6月30日)	当四半期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年6月30日)	(参考) 前期 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,525	10,672	28,357
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,470	△2,965	△20,328
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,329	△1,573	△10,795
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	183	567
V 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,276	6,317	△2,199
VI 現金及び現金同等物の期首残高	67,649	65,449	67,649
VII 現金及び現金同等物の期末残高	66,372	71,767	65,449